地域活性型

ポカラ市における妊娠期から乳児期までの切れ目のないケア推進事業（2023年～2025年）

より多くの母と子へ質の高い継続ケアを届け、健やかで安心して暮らせる社会へ

■ **実施団体：**
ネパール交流市民の会
（提案自治体：長野県駒ケ根市）

■ **対象国・地域：**
ネパール国・ポカラ市

■ **現地カウンターパート**
ポカラ駒ケ根友好協会(PKCAF)

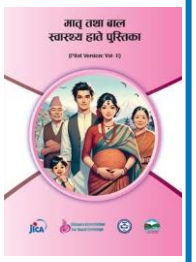
■ **協力内容：**
- 母子手帳を活用し、医療従事者や地域保健ボランティアの連携強化
- 医療従事者の産前・産後/新生児・乳児期のケア能力向上
- 女性地域保健ボランティアの産前産後ケア能力強化

■ **団体のこれまでの取り組み（草の根技術協力事業）：**
- 安心・安全な出産のための母子保健改善事業（2015-2017）
- ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト（2017-2021）

■ **事業実施の背景：**
ネパールは、世界でも妊産婦死亡率・乳児死亡率が高い国の一つである。駒ヶ根市とポカラ市は友好都市関係を基盤に、2008年より市民レベルで死亡率改善を目指す母子保健プロジェクトを始動。母子友好病院では 2021 年より新生児特別治療室が稼働したが病院で救えた命も帰宅後のフォローが必須であり、医療者の技術の向上と同時に地域と連携する仕組みの強化が必要であった。

ネパール国の課題と成果

課題①：母子に関する情報提供や共有の不足
成果①：母子手帳の導入と活用



女性が妊娠・育児の経過を把握し、医療者間で情報共有できるよう、州政府と医療機関の協力で母子手帳試行版を作成。医療者と地域保健ボランティアに指導を行い、多くの母親が安心と理解を得られるツールとして活用。

課題②：母乳育児の正しい知識・技術不足
成果②：乳房ケアによる母乳育児支援

駒ケ根市の助産師考案の乳房マッサージケアを活用し、現地・本邦研修にて看護師へレベル制の乳房ケアトレーニングを実施。ケアの定着のため指導者育成コースも導入。

事業の波及効果

「民際協力を駒ケ根市の文化に！」
～海を越えた両市のご近所付き合い～

・ポカラ市と駒ヶ根市は国際協力友好都市を結んでおり、本事業を通じて、両市の市民が互いの文化を尊重し合いながら助け合う民際活動を積極的に行い、思いやりと支援の輪を広げてきた。

・民際活動では、日本と現地をオンラインでつないで交流会を実施したり、市民ボランティアが出産の祝い品や乳房モデルを製作するなど様々な形での市民協力を行ってきた。